



リサナメント * TAKARAZUKA 通信

NO.10 2006 /1/18

2006年が始まりました。新しい年を迎えるたびに、今年はどんなワクワクすることが待っているだろうと楽しくなります。永遠に時間がながれていくなかに、こうして気分一新できる仕掛けをつくった人の知恵と、四季の移ろいをもつ風土に感嘆するばかりです。

私たち「リサナメント宝塚」も、足かけ5年の月日を重ねてことができました。この小さな活動に心を寄せ、集ってくださる皆さまに感謝いたします。そして、今年もどうぞよろしく願いいたします。



人は、創（はじ）める心をもってれば、
いつまでも若く、老いることはない。

1月3日、リサナメント世話人会をひらきました。議題は、リサナメントの活動をどう持続し、どう成長させていくか、今年の活動計画は、など。程のよい距離を保ち、楽しむということをお忘れず、定期的に会を続けるという大前提のもと、マンネリにならないように、また、関わる私たちも少しでも成長していきたい、次のステップをどう楽しむかといったことを話し合いました。そろそろ「継続する」難しさという壁が見えてきたのも事実です。でも、だからこそ、その壁を乗り越えたいし、壁のむこうには、新しい景色がひろがっていることを信じたのです。掲げた言葉は、当日上阪師が教えてくださったもの。そして1月7日の朝日新聞土曜版でも、日野原重明さんが同じ言葉を引いていらっしゃいました。そうした心を私たちもそしてあなたも持ちつづけられるように、リサナメントがそのきっかけを提案できれば、こんな幸せなことはないと思っています。

今年のリサナメントは。。。。

まずは、春。3月11日（土）に、元宝塚歌劇団月組・桐さと実さんのコンサートをひらきます。一昨年のすみれシンポ以来、桐さんのお人柄に惹かれてしまったリサナメント一同なのです。詳しくは後日チラシでお知らせします。

夏には丹波篠山に龍蔵寺を訪ね、俳句に挑戦する集いを、そして秋10月28日（土）には、5周年を記念して2回目のすみれシンポを開催します。テーマは『良く生き、良い終わりをむかえるためのリビングウィル』。ゲストに大阪大蓮寺ご住職の秋田光彦さんをお招きする予定です。ご参加を、そしてよろしければお手伝いの輪に加わってくださいますことをお待ちしております！！



季節の句

行く水にわれも従ふ恵方道

中村汀女

恵方とは、歳徳神のやってこられる大吉の方角。その方位にあたる社寺への初詣の道が恵方道。足もとの流れの音の清浄とした淑氣につつまれて、神前へ。平穏な人生を賜ることのできた佳人の、静かな幸せに満ちた佳句。

リサナメント宝塚世話人会

